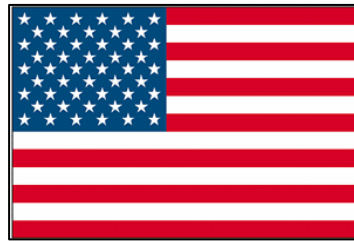
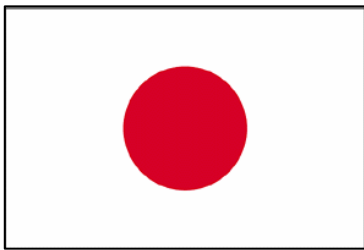


平成22年度 瑞穂町青少年国際派遣事業 報告書



MIZUHO JAPAN



瑞穂町教育委員会
Mizuho Education Board

1 派遣期間

平成22年8月13日（金）～8月23日（月）

2 派遣団

瑞穂町教育委員会	教育部長	村山	正利
	引率者	奥野	幸子
学生	中学3年生	伊藤	佳祐
	中学3年生	唐澤	侑子
	中学2年生	並木	つぐみ
	中学2年生	布田	香澄
	中学2年生	山根	萌
	中学1年生	藤森	智子

3 派遣場所

アメリカ合衆国カリフォルニア州モーガンヒル市（瑞穂町姉妹都市）

4 派遣の目的

姉妹都市モーガンヒル市に中学生を派遣することで、交流を深め、国際感覚を養うとともに、社会性や自立性、感性の向上を通して瑞穂町ひいては日本のよさを認識することを目的とします。また、ホームステイを通じて、アメリカと日本の文化や慣習の違いを学ぶとともに、日常会話に必要な英語力を身につけ、コミュニケーション能力を高めめます。

また、この国際派遣研修を通じて学んだことを、今後の瑞穂町を担う青少年として、大いに活用していただくことを目的とします。

※別添「実施計画書」参照

5 派遣団員選考

町内各中学校にチラシ配布，広報にて派遣団員を募集したところ，15名の応募がありました。（男子1名・女子14名）

対象は町内在住，在学の中学生。

作文審査と面接審査の合計で選考。

作文テーマ「モーガンヒル市で学びたい事～今後への活かし方～」

※別添「選考要領」参照

6 事前研修

モーガンヒル市での現地研修に向けて、下記の日程で実施。

第一回事前研修 平成22年6月12日(土)

内容 自己紹介 青少年国際派遣事業概要説明 渡航手続き 保険手続き
日常英会話研修 研修テーマについて

第二回事前研修 平成22年6月26日(土)

内容 渡航に関する書類提出 ESTA申請 日常英会話研修
出し物について

第三回事前研修 平成22年7月10日(土)

内容 姉妹都市委員会・前回派遣学生による体験談及び質疑応答
日常英会話研修 出し物について 手土産について

第四回事前研修 平成22年7月27日(火)

内容 手土産作成(竹トンボ)

第五回事前研修 平成22年7月30日(金)

内容 出し物練習(瑞穂音頭, 幸せなら手を叩こう, 個人の出し物)

第六回事前研修【結団式】 平成22年8月6日(金)

内容 派遣団員の抱負 教育長からの激励 現地研修に向けた最終確認

7 現地研修

(1) モーガンヒル市の中学生との交流, 姉妹都市委員会との交流, ホストファミリー, モーガンヒル市姉妹都市委員会の方々や同年代の子どもたちとの交流を通じ, 若い世代が将来にわたり両市町間の友情を引き継いでいくことが出来ました。派遣された6名が, 10日間で多くの体験をし, 同年代の人たちとの意見交換, また, アメリカと日本の制度の違い等多くのことを学びました。

(2) モーガンヒル市施設見学, 農場・牧場見学, 瑞穂町や日本との違

いを身近にして、多くのことを学ぶことができました。

(3) 歓迎レセプションでの交流

モーガンヒル市長，教育長，姉妹都市委員会の方々，多くのボランティアの方々から盛大な歓迎を受け，瑞穂音頭や歌，それぞれが練習した出し物の披露をしました。

8 市内施設見学

(1) モーガンヒル市役所

議会の見学も行いました。



(2) 100周年記念レクリエーションセンター

全市民対象に広く多様なサービスを提供する施設です。フィットネスセンター，エアロビクスやヨガ等の練習場，子どもからシニアまでのトレーニングジム，屋内プール，子ども預かり所を備え，多様な健康増進事業が行われています。

(3) コミュニティー文化センター

市民活動の拠点として機能しており，多目的ホールをはじめ，多くのホールを有しています。屋外には野外音楽ホールがあり，近隣市の住民も広く利用しています。

(4) アクアティクスセンター (サンタクララ郡施設)

レクリエーションプール、
ウォータースライダーなど
5種類の目的別プールを備
えています。年齢やレベル
に応じたスイミングスクー
ルやフィットネス講習も行
われています。温水プール
もあり1年を通して利用さ
れています。



(5) モーガンヒル市記念館

ハイラム・モーガンヒル氏が妻に送った家で、現在博物館として利
用されています。



(6) チックタック公園での講習会

インディアンの生活習慣を勉強し、貝殻でブローチを作りました。

9 農場・牧場見学

ピーマンやシシトウの栽培所や、シクラメン栽培所，マッシュルーム栽培所など様々な施設を見学しました。また，牧場では，羊や馬と触れ合う機会もありました。



10 学校見学

地元の学校を見学し，同年代の青少年との交流を深めました。また，現地の学校の協力により，授業にも参加することが出来ました。



1.1 現地研修行程

月日（曜日）	時 間	スケジュール	備 考
平成22年 8月13日（金） 【日本時間】	8時30分 11時30分	派遣団員 スカイホール 出発 成田空港 到着 成田空港 出発	・総務課マイクロバスで移動 ・ANA8便にて
平成20年 8月13日（金） 【以下米国時間】	10時30分 13時30分 15時00分	サンフランシスコ空港 到着 モーガンヒル市 到着 各派遣団員ホストファミリー宅	・現地姉妹都市委員会出迎え ・姉妹都市委員会バンにて移動
平成22年 8月14日（土）	午前中 12時00分 18時30分	ホストファミリーと自由行動 歓迎レセプション ボウリング	・歓迎行事として和太鼓の演奏がありました。 ・瑞穂音頭・歌・出し物
平成22年 8月15日（日）	終日	ホストファミリーと過ごす一日	
平成22年 8月16日（月）	終日	牧場・農場・花卉栽培等見学	ピーマンやシクラメン，マッシュルームの栽培場。
平成22年 8月17日（火）	終日	モーガンヒル市庁等見学 古代美術館見学	
平成22年 8月18日（水）	終日	サンタクルーズ，モントレイ訪問	瑞穂町主催ピザランチ
平成22年 8月19日（木）	終日	中学校訪問	体験入学（授業に参加しました。）
平成22年 8月20日（金）	終日	サンフランシスコツアー	瑞穂町負担でバス借上げ
平成22年 8月21日（土）	午後	サヨナラレセプション	メキシコ料理店
平成22年 8月22日（日）	6時45分 7時00分 8時40分 12時10分	コミュニティーセンター集合 モーガンヒル市出発 サンフランシスコ空港到着 サンフランシスコ空港出発	・空港まで姉妹都市委員会のバンにて移動しました。
平成22年 8月23日（月） 【日本時間】	14時40分 19時00分	成田空港 到着 スカイホール到着，解散	・総務課バスにて移動

1 2 事後研修

現地研修後に、こどもフェスティバルでの写真展や青少年の主張内報告会に向けて事後研修を実施。

第一回事後研修 平成22年8月24日(火)

内容 教育長への報告 事後研修の予定確認 写真データ取り込み

第二回事後研修 平成22年9月25日(土)

内容 こどもフェスティバル写真展準備

第三回事後研修 平成22年10月10日(日)

内容 こどもフェスティバル写真展準備

第四回事後研修 平成22年10月16日(土)

内容 こどもフェスティバル写真展前日準備

こどもフェスティバル写真展 平成22年10月17日(日)

内容 青少年国際派遣事業ブース設置 パネル展示【写真】 DVD放映

第五回事後研修 平成22年11月20日(土)

内容 青少年の主張内報告会準備

第六回事後研修 平成22年12月2日(木)

内容 青少年の主張内報告会リハーサル

青少年国際派遣事業報告会【青少年の主張】 平成22年12月4日(土)

内容 パワーポイントによるスライド上映 派遣団員研修テーマ報告

1 3 派遣団員報告

各派遣団員は、事前に設定した研修テーマを現地で調査し、報告書を作成しました。また、それぞれの感想文も作成しました。

瑞穂第二中学校 三年
伊藤 佳祐

報告書【食文化について】

僕の研修のテーマは「食文化について」です。最初、行く前のアメリカのイメージは、両手にスニッカーズを持って、周りにはスナック菓子がたくさん転がっていてそれを、テレビを見ながら食べているイメージでした。そして、お菓子ばかり食べていてご飯をあまり食べないものだと勝手に思いこんでいました。しかし、実際は違いました。

僕は二軒のホストファミリーの家に泊まりました。一軒目はすごくルーズな家庭でした。朝と夜は作るのが簡単なシリアルやカップラーメンが多かったです。

この家庭では基本的に料理を作る回数が少なかったです。

二軒目の家庭では前の家庭とは対比的に、夕食は全部手作りでした。

驚いたことは、夕食前に必ずお祈りをする事です。とても貴重な体験をしたと思います。

それと一軒目の家庭との共通点を見つけました。それは、どちらの家でも朝はシリアルを食べたことです。このことから僕は、アメリカでは朝食にシリアルを食べることが多いのだと思いました。

十泊十一日の中で僕はいろいろな場所に行きましたが、そこでも気づいたことがいくつかありました。一つは映画館に行ったときに日本と違い、ポップコーンがとても大きいところです。映画が終わっても食べることができずに平気で捨てていました。そのとき（アメリカだな）と思いました。もう一つはお菓子やジュースの味が日本とはちがうところです。おいしいものはおいしいけれど、不思議な味がするものもありました。例えば、シップの味がするジュースやガムがあったり、すごく甘くて歯にくっつくグミがあったりしました。見た目も日本とは違いました。色がとにかくカラフルで驚きました。しかも、虫の形のグミがあったり、ユニークな形のお菓子も目につきました。

モーガンヒル市に行ってアメリカではファーストフードが多く食べられて

いることがわかりました。パーティーなどみんなが集まる時には、ピザを食べたり、ポットラックをすることが多かったです。バスで移動するときにはちょっとしたお菓子が出ました。

アメリカ人にとって食事とはエネルギーを補給するためだけでなく、人と人とのコミュニケーションのためでもあると思います。これがアメリカの食文化だと感じました。

【感想文】

僕のモーガンヒルでの生活はとてもすばらしい思い出です。普通の旅行では味わえない体験・交流が、たくさんできました

僕は二軒のホストファミリーの家に泊まりました。一軒目の家庭は前に僕の家泊りに来た、ブラント・ガーバー君の家です。とっても大きな家でした。三日間しか泊られませんでした。とても親切にしてもらい、その三日間でプール、映画館、ショッピング、教会、遊園地につれていってもらい、とても充実した楽しい三日間でした。

残りの7日間はジャコブ・ジーマン君の家に泊まりました。ジーマン家は外出はあまりしませんが、家族の仲が良くみんなでお祈りをしたり、夜にボードゲームやランプをして、とても楽しませてくれました。

ジーマン家では、「Young Life」という子供達を集めて遊ぶ企画をしていて、僕も参加させてもらい、日本ではできないような遊びを体験することができました。

どちらのホストファミリーもとても親切にしてくれて、本当に楽しい十泊十一日を送ることができました。

瑞穂町のプログラムは、農場へ行ったり、学校に行ったり、サンフランシスコを観光したり毎日あちこちに連れていってもらいました。僕達のためにここまでしてくれるなんて、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

見学地の人達も言葉が通じ合わない中、身ぶり手ぶり教えてくれて助かりました。おかげで少し理解しやすくなりました。ありがたかったです。

初めての飛行機で、初めての海外でこんなにもぜいたくな体験をさせてもらい、良い経験だと思いました。協力してくれた全員に感謝したいです。機会があったらまた行きたいです。

瑞穂第二中学校 三年生

唐澤 侑子

報告書【観光地について】

私の研修テーマは観光地についてです。

今回はモーガンヒル市内，サンフランシスコとその周辺へ行き，多くの観光地を見学することが出来ました。まずサンフランシスコは，とても知名度の高い市なので，一度は見たことのある有名な場所が多くありました。

サンフランシスコのシンポル，ゴールデンゲートブリッジやケーブルカー，フィッシャーマンズワーフなどは，とても有名なので写真を撮っている人たちなどで賑わっていました。

又，今回行った場所以外にも，サンフランシスコにはビクトリアンハウスなど有名な観光地がたくさんあります。そしてサンフランシスコの一番の特徴は，有名な場所でありながら都会とは違って，ゴチャゴチャせずに落ち着いていて，のどかな雰囲気があることです。これがサンフランシスコの良い所でもあり，人気のある理由だと思います。

次にモーガンヒル市内。小さな市とは言っても観光地は多いです。モーガンヒルハウスは，モーガンヒル市をつくったモーガンヒル氏とその家族が住んでいた家です。ここではモーガンヒルの歴史を学ぶことが出来ます。また，モーガンヒルには，ダウンタウンという大きな通りがあります。ここでは夜になるとコンサートが開かれ，歌に聴き入る人や踊る人たちでとても賑わっています。定期的に朝市やフリーマーケットも開かれています。また，モーガンヒルで生産が盛んなマッシュルームのオブジェがいたる所に飾ってあり，とてもきれいな通りです。その他にも遊園地やプールなど遊べる場所も多くあり，住んでいて退屈することのない市だと思います。

アメリカはとても大きな国なので，今回の現地研修では，カリフォルニア州のほんの一部しか見学することが出来ませんでした。インターネットで調べてみるとカリフォルニア州はもちろん，モーガンヒル市内にも，まだたくさんの観光地があります。モーガンヒルと瑞穂の観光地を比較してみると，モーガンヒルの方が観光地に力を入れていることがわかりました。

【感想文】

8月13日

瑞穂町を代表する六人の中学生の一員として，重大な責任や，漠然とした

不安を背負いながら、十日間のモーガンヒルでの現地研修に私達は行って来ました。

初めての海外ということに加え、一人で一家庭にホームステイをするということもあり、何も分からない環境の中に行くことに対しての不安はとても大きいものでした。

私は去年、モーガンヒルから派遣されてきた中学生をホストファミリーとして受け入れました。

そして私を受け入れてくれたホストファミリーは、去年私の家にホームステイに来た中学生の家族でした。お互い辛かった点や、大変だった点を分かっているの、その分私は恵まれた環境にいたと思います。

現地に着くとすぐに私達は各ホストファミリーの家へと解散しました。

ここからは英語漬けの十日間が始まるかと思うと、不安でもあり、楽しみでもありました。

まず、慣れることに時間がかかったアメリカの生活習慣は、靴を履いたまま家の中に入るということでした。

一日中靴を履いているというのは、思っていた以上に気持ちが悪くなかなか慣れることができませんでした。

食事は日本のように、主食や副菜など何品も出てくるのとは違い、夕飯でもホットドッグやピザが一枚といった簡単なものでした。

朝食もシリアルやパンケーキのみといったもので、日本の食事に慣れている私にとって、一日に食べる品数があまりにも少ないので少し物足りないような気がしました。

そして初めて味わった時差ぼけは、とても辛かった感覚を鮮明に覚えています。疲れているのに深夜に目が覚めて寝ることが出来ない。そして翌日体調を崩してしまう。こんなことが二～三日続きました。毎日のスケジュールが隙間なく組み込まれているなかでの時差ぼけは本当に辛いものでした。

そして、これも初めての経験で、十日間で最も辛かった出来事がホームシックです。私はホストファミリーの方が気遣ってくれたおかげですぐに治りましたが、派遣団員の中にはひどいホームシックにかかってしまったメンバーもいました。しかし今になっては、海外にいる時にしか経験できない、辛いながらも貴重な体験だったのではないかと思います。

辛いこともありましたが、アメリカでの十日間は、見るもの聴くもの全てが新鮮で、毎日がとても刺激的なものでした。

農場、牧場の見学では、あまりのスケールの大きさに驚きました。

モーガンヒルという一つの市の中だけでも、子供たちのための巨大な運動場があり、一回の移動に一時間以上かかることが少なくないことから、日本とアメリカの国土の違いについて感じる事が出来ました。

私は、瑞穂町は緑も多くとても良い環境だと思います。

しかしモーガンヒルも瑞穂町に負けないくらい素晴らしい環境でした。

町並みは綺麗で、一軒一軒に必ず、木や花がたくさん植えられていて自然に溢れていました。そして景色の良さに圧巻されました。モーガンヒルは建物などの陰になる場所以外からは、大きく、とても綺麗な山が臨めます。

車で走っていて、あまりにもいたるところから綺麗な景色が臨めることにとても感動しました。十日間本当に色々なことを学び、感じる事が出来ました。そしてこの十日間で私が本当に一番感動したことは、アメリカ人の心の温かさです。十日間で私達が関わったアメリカ人はかなりの人数です。そんなに大勢の人と関わったのであれば、何人かは少し嫌味な人やマナーの悪い人がいてもいいと思うのですが、出会う人が皆、驚くほど親切で、優しく、気さくな人ばかりでした。

私のホストファミリーの知り合いの日本人の方は、私が食べ物のことで困っているんじゃないかと、緑茶やおかゆをわざわざ作って届けてくれたり、

私は誕生日を現地で迎えました。ケーキを用意してくれて40人近くの人たちが皆でお祝いしてくれました。

ショッピングセンターなどで偶然すれ違ったホストファミリーの知り合いの人たちも優しく声をかけてくれました。

出会う人皆が本当に良い人ばかりだったので、別れるのは本当に辛かったです。

最終日、日本に帰って家族に会えるという喜びはとても大きかったです。ホストファミリーや関係者の方たちとの別れはとても悲しかったです。

涙が止まらなくなり、いつまでも名残は尽きませんでした。

アメリカと日本はあまりにも距離が遠すぎてなかなか会う機会はありませんが、ホストファミリーとの絆はとても固いものになったと思います。

そして今後もこの関係を保ち続けたいと思っています。

今回の派遣事業で、私は本当に多くのことを学び、とても大きなものを得ることができました。そして、人として成長することが出来ました。

中学三年生でアメリカへホームステイに行くというのは、めったに出来ることではありません。この貴重な体験で得たものを、私は絶対に無駄にせず、今後の生活に生かしていきたいと思っています。そして、もっと広い範囲に視野

を向け今後も色々なことに積極的に挑戦していきたいと思います。

私の現地研修での最大の目標は、日本とアメリカの共通点と相違点について学ぶことでした。

日本に帰ってきた今、その目標について振り返ってみると、様々な分野で瑞穂町とモーガンヒル市の共通点や相違点を見つける事ができたと思います。

遠く離れた瑞穂町とモーガンヒル市ですが、今後もこの国際交流が続いてくれることを願っています。

本当にありがとうございました。

瑞穂第二中学校 二年生

並木 つぐみ

報告書【文化について】

私はモーガンヒル市に行って、たくさんの文化を学ぶことができました。ウェルカムパーティでは太鼓を披露してもらいましたが、私の使っている太鼓とは違い、その太鼓はワイン工場が多いのでタルを使った太鼓でした。

ホームステイ先の家では、お皿は瀬戸物ではなくプラスチックが多かったように思われました。食事はナイフとフォークで食事をしていました。私はナイフがあまりじょうずに使えなかったので、箸を使わせていただきました。お風呂は日本の様にバスタブにお湯をためて入ることはせず、バスタブの中でシャワーを使います。入浴時間はほとんど朝で、私の家では夕方ごろに入るので朝起きた後に入る事に慣れるのが、とても大変でした。

次にYESとNOをはっきりとする事です。普段私達は「どちらでもいい」とか「どれでもいい」などと言う優柔不断な言葉を使いますが、外国ではイエスとノーをはっきりと言い自分の意見を主張するのが大切です。最初は失礼だと思ってなかなかNOが言えなかったけれど、生活に慣れてきたら自然にNOが言えるようになりました。

建物は密集して建っておらず、一軒一軒の庭が広く私のホームステイ先の家ではプールがあり、バーベキューもしました。それとほとんどの建物がクリーム色で統一されているようでした。交通では日本は左側通行ですが、アメリカは右側通行でした。乗せてもらった車を見ると左ハンドルでした。スピードの標識は小さな字で書いてあり、見にくかったです。

食文化で気付いた事はファーストフード店やパン屋がたくさんあり、肉の中心の料理が多かったです。サイズは日本と比べるととてもビックで私はなかなか全部食べ切ることが出来ませんでした。

今まで外国の文化など興味ありませんでしたが、たくさんの体験をし、国ごとの文化があってとても興味がわき、この体験が出来てとても良かったです。

【感想文】

青少年国際派遣事業の一員として瑞穂町の姉妹都市であるモーガンヒル市に行ってきました。私のホストファミリーは日系三世で昔、カリフォルニア州で農家をしていて、そこでは色々な国の人達が住んでいたという話を聞きました。私が滞在させてもらう事になった家には「クーパー」というミニドゥドゥル犬がいて「ミニ」と言う名前がついていても、とても大きかったです。私は今まで犬に触ることが出来なかったけれど、クーパーに出会ってから小さな犬なら触れるようになりました。その時は、とてもうれしかったです。

そして私は同じ中学二年生のカーリーンと小学校六年生のリンゼイとも仲良くなりました。一緒にプールで遊んだり Wii をしたり絵を書いたりして過ごしました。私の事を気遣ってくれたり、時にはおもしろい事を言って笑わせようと頑張ってくれた時もありました。お母さん、お父さんも私のために色々買ってくれたり、お弁当を作ってくれたりしました。本当の家族のように接してもらい、とてもうれしくてずっとここにいたいと思ってしまいました。

ウェルカムパーティーでは、たくさんの人々が歓迎してくれました。モーガンヒル市で盛んな和太鼓も披露してくれました。私は和太鼓を習っているので、とても興味がありました。ふりが大きくてとてもかっこよくて、上手でした。その他には、マッシュルーム栽培場や農場・牧場見学、サンフランシスコ見学などもしました。私達のためにたくさんの企画をたててくれた事に感謝しています。ホームステイ先の家族にもショッピングやカリフォルニア州にある議事堂「サクラメント」や「美女と野獣」の劇、そして有名な歌手のライブに連れていってもらいました。体の心配をしてくれたり、日本が恋しいんじゃないかと思って日本の物を買ってくれた事もありました。夜はカーリーンとリンゼイと私で日本語と英語のカルタを作って遊びました。最初はなかなか喋れなかった英語も、だんだんコミュニケーションを取れるようになり、とても楽しかったです。そしてこんなにすばらしい経験をさせてもらったのは、瑞穂町とモーガンヒル市の役員のみな様、私達を温かく受け入れてくれた家族です。十日間本当にお世話になりました。

Thank you very much!!

瑞穂中学校 二年生
布田香澄
報告書【動植物について】

私の研修テーマは「動植物について」です。モーガンヒル市は、一年を通して気温の変化が少なく、とても過ごしやすかったです。サンフランシスコから、車で約 1 時間の場所にあり、自然が豊かなところでした。私のホームステイ先の家は、山のほうにあり、とても高い木で囲まれていました。

また、植物がたくさん育っていて、リスなどの小動物が道にいたり、お庭には、シロツメ草などが、咲いていました。畑には、スイカやトウモロコシなどの野菜があり、日本でも、よく見かける植物や食べ物がありました。農場を見学したとき、日本の 2 倍くらいのサイズの、ピーマンとしし唐を見せてもらいました。とても大きくて、びっくりしました。

そんな、自然がきれいなモーガンヒル市にも、植物が生えていない所が部分的にありました。モーガンヒル市は、気温の変化があまりなく、乾燥している地域です。私たちが、ホームステイしている間は、雨が降ることがありませんでした。普段から雨が降らない地域なので、水をまかない所に、植物は生えてこない事が分かりました。そのため、とても広い敷地を持っているホストファミリーの家では、スプリンクラーを使って、水をまいていました。水が、まかれていないところの植物は、枯れてしまっていて、土も乾いてしまっていて、団十郎茶色になっていました。日本では、どこにでも雑草が生えているのに、モーガンヒルでは、水を撒いたところにしか、植物が生えないとわかって、とても驚きました。

動物のことでは、ホームステイ先の家には、犬が 2 匹、ウサギが 9 匹、馬が数匹、七面鳥がたくさん居ました。農場には、羊や牛などがいました。特別に珍しい生き物はいませんでした。ですが、農場ではなく、普通の家で七面鳥を飼っていたり、馬を飼っているのは、日本にはあまりなく、すごいと思いました。

全体的に、日本との大きな違いはありませんでした。ですが、いつも気にしない所に目を向けてみると、いろいろな違いを、発見することができました。環境が違ふと、いろいろと違ふ事ばかりだと思っていたのに、日本と同じところを見つける事ができてよかったです。

【感想文】

私はこの夏、瑞穂町の代表として、モーガンヒル市に行ってきました。そして、とても貴重な体験をしてることができました。

初日。瑞穂を出て成田に着いたとき、これからアメリカに行くという感覚は全くありませんでした。約10時間のフライトを終えて、アメリカについたときは、周りの雰囲気や空気などが違いました。私のホームステイ先のサファキッシュさんが、迎えに来てくれていて、初めて話した時に、「Nice, smile!!」と、言ってくれたことを、とても覚えています。ホストファミリーの家についたときは、家の大きさに、驚きました。落ち着いてから、アズとジャイが話しかけてきてくれて、トランポリンやモノポリーなどで一緒に遊びました。ですが、言葉が伝わらなく、話が続きなくて困らせてしまいました。まだ相手のことをよくわからない時のコミュニケーションとして、言葉がとても大切ということが分かりました。

2日目の歓迎レセプションとボーリングでは、他のホストファミリーとも話ができうれしかったです。

ホストファミリーと過ごす一日では、遊園地に連れて行ってもらい、乗り物の待ち時間に、その乗り物について、いろいろな話ことができました。ホストファミリーの親戚の人も途中から加わり、みなさんととてもフレンドリーで親切な人たちで、何もわからなかった私に話しかけてきてくれて、うれしかったです。

4日目から、派遣事業のプログラムが始まりました。この日は農業体験で、一日ぶりに日本語を話したら、とても懐かしく感じました。ピーマンとしし唐をみせてもらった時に、日本のものの倍以上の大きさで、びっくりしました。シクラメンやマッシュルームの工場では、作る工程を見せてもらい、成長をしていく様子がよくわかりました。

施設見学では、一つ一つの建物がとても充実していました。モーガンヒル市の由来や当時の人々の生活の様子などの話を聞かせてもらいました。図書館には、日本の漫画も置いてありました。結構種類があったので、日本の漫画が、こんなに人気があると思いませんでした。

この日の夜、レディ・ガガのコンサートに、連れて行ってもらいました。始まったのが、9時からだったので、眠かったです。ですが、いつもテレビでみている時より迫力があり、めったにみることができない人なので、生で見ることができてうれしかったです。

次の日は、ミステリースポットと海、水族館とマックに行きました。ミス

テリースポットでは、建物や地面など、ほとんどのものが斜めになっていて、立っただけで、気持ち悪くなってしまいました。ですが、いろいろな仕組みを見られて、とても感心しました。

お昼ご飯は、海でサラミピザを食べました。とても美味しく、印象に残っています。午後は、モントレイベイ水族館に行きました。魚の種類がとても多かったです。ヒトデやウニなどのあまり動かない生物を触れて、ムニムニしていて少し気持ち悪かったけれど、おもしろかったです。夜ご飯はマックでした。日本より大きいことは、知っていましたが、こんなに大きいとは思いませんでした。とてもびっくりしました。

次の日は、市内の学校見学に行きました。一校目は、数学と社会、二校目は、社会と英語（国語）でした。国語の時、隣に座っていた男の子がとても親切に話しかけてくれて、嬉しかったです。数学では、日本でいう連立方程式の授業で、社会は歴史の授業でした。日本語だと簡単にできることも、言葉が変わると、全くと言っていいほど分からなかったです。授業の時間は、48分授業と、中途半端な時間でした。実技ではない時も、すべて教室を移動し、クラス単位で変わらないのに驚きました。

サンフランシスコ観光の日は、派遣団員の侑子ちゃんの誕生日でした。ゴールデンゲートブリッジを渡り終えたところでお祝いをしました。モーガンヒルの人が、カップケーキを作ってくれました。とても甘かったけど、美味しかったです。次に行った場所で、ケーブルカーに乗りました。上りと下りが激しくて、想像以上だったので、驚きました。ですが、街並みがとってもきれいで、とても楽しかったです。その後に食べたクラムチャウダーが特に美味しかったです。食べ終わった後、お土産を買いに行きました。時間は30分しかなくて、とても焦りました。アメリカの人は、悩まないのに、私たちが、お土産を決める時間の長さですごく驚いていたみたいです。夜ご飯は、アリアと一緒にステーキを作りました。私は、ほとんどにんにくを刻んでいたのですが、包丁の切れなさに驚きました。フライパンにワインを入れて、火をつけて本格的な料理ができました。他には、ポテトサラダも作りました。ホストファミリーが喜んでくれてうれしかったです。

モーガンヒルで過ごす最後の一日は、さよならパーティーでした。今まで約一週間分の写真やビデオをマーブさんが編集してくれた物を見ながら、パーティーをしました。たくさんの思い出を、振り返ることができてよかったです。

そして日本へ帰る日。朝早くてゆっくりできませんでした。家の外までお

母さん以外の人は見送ってくれました。お母さんには、仏教徒センターまで送ってもらいました。みんなで作った千羽鶴をマーブさん夫妻に渡してそこで、ホストファミリーとお別れでした。

空港までの間、車の中でみんな泣いていました。みんなが泣くほどの思い出ができたのだと思います。

今回、国境を越えて、いろいろなことを学びました。国が違っても、家族のような関係が築けたことを、嬉しく思います。モーガンヒルの人に優しくしてもらえたことを、忘れずに、来年瑞穂に来る人たちや身近にいる人にも優しくしていきたいです。そしてこれからの活動や学校生活などに、積極的に生かしていきます。この体験は、私にとってとても貴重な経験でした。瑞穂の代表として、この経験ができたことを、誇りに思います。

瑞穂第二中学校 二年生

山根 萌

報告書【ショッピングモールや量販店について】

アメリカにはいくつかの量販チェーン店が存在します。コストコなど、日本に進出している量販店からわかるように、店舗や駐車場の規模は日本よりかなり大きく、売っている生活雑貨や食品も日本に比べ、まとめ売りの傾向にあります。私はその中の1つであるTARGETというショッピングモールに連れていってもらいました。

TARGETはディスカウントストアですが、他の量販店に比べデザインを重視しており、TARGETとSONYが提携した商品や、おしゃれなオリジナルブランド商品も見られました。また、住宅街や都心部など、場所に合わせて店舗の大きさの工夫をしていました。店内の内装は商品の種類によって色分けされていて、客が分かりやすいような工夫がなされていました。最上階には映画館があり、中心部には、大きなフードコートなどもあることから、日本のショッピングモールとよく似ているな、と思いました。フードコートでは、複数のハンバーガーショップや、中華、日本料理もありました。日本食には、寿司、すき焼きなどバラエティーに富んでいました。また、専門店街の中には日本専門店もあり、文化的な物（扇子や箸）から普段私たちが使うシャンプーやお馴染みのカップラーメンなど、日用雑貨から食料品までありました。価格を比べると、やはり日本の方が大分安かったです（カップラーメンは約3

00円)。洋服類の店は沢山ありました。Tシャツが\$6(約480円),ジーンズが\$10(約800円)と安い商品が沢山ありました。ただ,日本にあるような,高級ブランド店はアメリカのほうが大分安かったです。TARGETでは家電から,生活雑貨,衣料品までトータルな商品が売られていて,たくさん家族連れが買い物を楽しんでいました。

【感想文】

現地での研修を終え,私は「人と人との関わり」について深く学ぶことができました。10日間,ホストファミリーの一家族として生活し,アメリカの文化や生活習慣をより身近に感じてくることができました。又,いろいろな施設の見学を通して,日本との違いを学びました。この現地研修を終え,少しは自立し,自分の考えを持つことができたような気がします。

—ホストファミリーについて—

私がお世話になったホストファミリーのお父さんは日本人の方でした。そのため,日本同様家では靴をぬぐ生活をされていました。

日本のことをよく理解されていたので,時々日本語を使って下さったり,日本食(お味噌汁やご飯)も作ってくれました。学校に行く日は,手作りのお弁当を持たせて下さったり,自家用のクルーザーでイルカを見に連れて行って下さったり本当の家族ように接してくださいました。おかげで楽しく充実した生活を送ることができました。

—ウェルカムパーティー—

沢山の人が来て,私達団員を歓迎してくれました。とても楽しく,これからの生活に期待できました。中でも現地の人が力強い演奏で和太鼓を披露してくれたことに驚きました。我が瑞穂町も和太鼓が盛んですが,こんなに遠い国で,日本の文化を見ることができ,嬉しくなりました。

—中学校訪問—

学校の施設は全体的に日本より大きく開放的でした。椅子と机が一体になっていて,少し座りづらかったです。学校にはユニークなマスコットキャラクターがあり,私達もお土産として頂きました。

生徒は体格が良く,大人っぽい人が多くて,スケートボードで通学している人もいました。実際に私たちは数学と地理を受講しました。授業中の態度

も真面目で積極的に受けていました。チャイムが短い、おやつ時間(10:30)があるというのには驚きました。日本もおやつ時間を設けて欲しいです。授業が終わると友好的に、沢山の生徒が握手を求めてきてくれました。又、地方紙(モーガンヒルタイムズ)の取材を受け、授業を受けている時の様子が載りました。

—農場見学—

3ヶ所の農場を見学しました。とても大規模な農場ばかりでした。広大な農場で育ったびっくりするほど巨大なピーマンや獅子唐を見てきました。シクラメン農場では機械による作業が沢山あり、種をまく機械、土や水を均等にまく機械を見てきました。ホストファミリー宅での朝食で毎日食べたイチゴもモーガンヒル産でした。とても大きくて甘くて美味しかったです。

—市庁—

市民が市議会に参加して意見を交換する会議室を見学しました。私たちも実際に議員室に座ってモーガンヒルについての感想を述べさせてもらう事ができ、良い経験になりました。

—図書館—

とにかくたくさん本がありました。本を返却するとき、機械の上に本を乗せると自動判別して、ベルトコンベアで分類ごとに自動で仕分けられる機械があり関心しました。人の手間が省けてかなり便利な機械です。置いてあるパソコン(約20台)は自由に使うことができます。また、日本のマンガがたくさんありました。言葉は全て英語で書かれていて、日本のマンガが海外に影響しているということを改めて実感しました。

—食文化について—

よく“アメリカのものは味付けが濃い”と聞きますが薄味好みの私からしても、大抵のものは美味しく食べることができました。しかし、お菓子については不思議な味がしたり、原色のものが多数ありました。量は想像通り食べきれないほどあり、もったいないと感じることもありました。

—モーガンヒルの街並み—

モーガンヒルはとても環境が整った場所でした。道路はきちんと整備され

ていて、ゴミは私が見た限り落ちていませんでした。ホストマザーは日頃からリサイクルを心掛けていると話してくれました。市をきれいにしたいという市民の思いと努力がよくわかりました。瑞穂町もモーガンヒル市と同じように、日頃から心掛けることはできないかと思いました。

—現地で発見した日本の文化—

モーガンヒル市の図書館に日本のマンガがたくさんおいてあったり、ウェルカムパーティーで和太鼓を披露してくださったり、モーガンヒルの方々が日本の文化を好んで生活に取り入れているということがわかりました。

モーガンヒル市と日本の瑞穂が姉妹都市だからなのか、アメリカ全体で日本の文化が取り入れられているのか…

どちらであっても嬉しい気持ちになりました。

—色々な人種の集まり—

サラ（私のホストファミリー）に小学校・中学校のアルバムを見せてもらうと、日本人や中国人など他の国の方がたくさんいました。

また、モーガンヒル市はメキシコに近いので、スペイン語を喋る生徒も少なくありませんでした。中学校訪問でも、日系の方を見つけられました。私のファミリーも日系の家族ですが、「国が違うから」といって差別するような人はいませんでした。仲間外れにすることなく、“みんなで”という気持ちをもって楽しく生活していることがわかりました。

まだまだ数え切れないほど、沢山の経験をさせて貰いましたが、これらが特に私の心に残ったものです。10日間、沢山の人々にお世話になりましたが、アメリカと日本ではやはり“ボランティア精神”が違うな、と感じました。ウェルカムパーティーや牧場での昼食の準備などは、全て自主的に協力してくれたのだと知り驚きました。人のために惜しげもなく手を差し伸べてくれる、そんな現地の方々の温かい心に直に触れる事ができ、これらの事は様々な事に役立てられると思います。

瑞穂町もモーガンヒル市のような温かい心に満ちたよりすてきな町にしたいなと思いました。

瑞穂中学校 一年生

藤森智子

報告書【生活習慣について】

私は、国際派遣団員の 1 人としてアメリカのモーガンヒル市に行き、アメリカと日本の生活習慣の違いについて調べてきました。

まず、ホストファミリーの家に入った時、玄関で気が付いた事があります。

日本のドアは外開きなのにアメリカのドアは内開きでした。この違いは、靴が理由だと思えます。日本人は玄関で靴を脱ぐので内開きにすると玄関に置く靴が邪魔でドアが開かなくなってしまうからだと思えます。なので、日本は外開きのドアが普通になったと考えられます。私のホストファミリーの家では一階は靴のままで生活するのですが、二階の子供部屋へ行くときは階段の下で靴を脱ぎます。やはり、靴を脱いで生活した方が過ごしやすかったです。

次に、ホストファミリー先での洗濯物についてです。日本では、洗濯物を外に干すのが一般的だと思いますが、ホストファミリー先では業務用と思われる様な洗濯機で洗濯し、洗い終わったらそのまま乾燥機に入れて乾かしていました。町のどの家を見ても外に洗濯物を干している家は一軒も無く、驚きました。

次に、浴室の使い方についてです。日本では、浴室には湯船と洗い場があり、椅子に座りながら体を洗うのが普通だと思います。しかし、アメリカでは浴室には湯船しかなく、洗い場というものはありませんでした。なので、湯船の中で体を洗うというのが、一般的でした。私は、アメリカの浴室に入った時、椅子と洗い場が無い事に違和感を覚えましたが、それも後になくなりました。また、アメリカの浴室では日本のようにお湯をわかしてゆっくり体を温めたりする事ありませんでした。

次に、アメリカの交通についてです。日本は車道が左側通行ですが、アメリカは右側通行でした。それは、車体の構造にも関係していると思えます。日本の車は右側にハンドルが付いていますが、アメリカの車は反対の左側に付いています。このことから交通の面でも生活の違いが分かります。

私は、この夏の経験を瑞穂町の活動に積極的に参加する事で活かしていきたいです。

そして、この思い出は一生忘れられないような大きなものになりました。

もし、またモーガンヒル市に行けるチャンスがあったら絶対に行きたいです。

【感想文】

私達六人は、国際派遣団員として八月十三日から二十三日までアメリカのモーガンヒル市に行ってきました。成田空港を出発して現地時間の午前十時頃にサンフランシスコ空港に着きました。着く前は、初めてのアメリカが楽しみでしようがなかったけれど実際にアメリカに着くと不安の方が強くなって凄くどきどきしました。

私が過ごした十日間、たくさんの事がありすぎて全てを書くことは出来ないの一番印象に残った事を書きます。それは、四日目に行った農場見学です。最初に、ピーマンやシシトウなどを育てている畑に行きました。とても広く、見渡す限りシシトウばかりで緑のじゅうたんみたいでした。またグリーンペッパーソースの材料となる野菜を栽培していました。私は、日本でグリーンペッパーソースを何度か見たことがあったので、ここの畑で作られた野菜が入っていると聞いた時は、びっくりしました。次に行ったのは、花を栽培しているところでした。土に種をまいていく工程から花として育つまでを見学させてくれました。ほぼ全てが機械で作業をやっていたので機械化が進んでいるんだなと思い、驚きました。そして、モーガンヒル市でもシクラメンの栽培が有名なようでした。日本のものとアメリカのものとはアメリカのほうが一回り小さい感じがしましたが、色がとても鮮やかできれいでした。瑞穂町でもシクラメン栽培が盛んなので、なんとなく親近感がわきました。

私は、滞在最後の日の夜アメリカで過ごした十日間の出来事を思い返していました。ホストファミリーのブリー達とプールで遊んだりバーベキューをしたり、ピアノを弾いて遊んだりしたことを思い出して、ホストファミリーと別れる時は、とても悲しくなってしまう泣いてしまいました。

ホストファミリーのローマン家族は、私が楽しめるように色々な事を考えてくれました。それが、とても嬉しかったです。私は、十日間ホームステイしたことで言葉の壁を越えて心が通じ合えたかなと思いました。

この十日間で、人生の中で絶対に忘れられない貴重な体験をすることが出来ました。また、機会があればモーガンヒル市に是非行きたいです。

派遣団長 教育部長 村山 正利

【感想】

教育的な観点や一般論も含めたなかで、事前研修も十分行うことができました。生徒たちも誰一人脱落することなく熱心に学習し、ごく自然な形で派遣することができました。

受け入れをしてくれた、米国姉妹都市委員会日本委員会の方々の熱烈な歓迎や、行き届いたスケジュール管理を行ってくれました。このことは、滞在にあわせホストファミリーやサポートをする人たちへの徹底した打ち合わせや指導の賜物であると感じ取ることができました。感謝に堪えません。併せて米国姉妹都市委員会の方々が、日本との交流の重要性や継続性を臨んでいることの表れであり大変感謝や感銘を受けました。

この交流については、瑞穂町やモーガンヒル市の一部の方々からも異論があることも事実として受け止めています。従って、中長期的な展望の中で、住民に対する説明責任や国際交流の意義や必要性及び重要性を繰り返し発信しなければならないことを再認識しました。

13 終わりに

瑞穂町では平成18年7月3日に米国カリフォルニア州モーガンヒル市と姉妹都市提携の調印を行い、これまでに様々な国際交流事業を実施しています。今回選ばれた6名の派遣中学生は瑞穂町の中学生代表としての自信と自覚を持つことはもとより、現地研修に向けての目的意識を持って取り組み、さらに、一人一人が瑞穂町の友好親善大使としての役割をもち、滞在先で出会った人たちと積極的に関わり、様々な交流を通して、モーガンヒル市の方々と友好を深めることができました。また、本事業は単なる海外派遣研修ではなく、ホストファミリー宅へホームステイする事業であり、派遣中学生はそれぞれのホームステイ先で日本では体験できない貴重な財産を手にして帰国しました。

今回の派遣事業を通して、瑞穂町のよさを再認識し、自己の視野を広げ、若い世代の視点から、自己の生き方や今後の国際交流等のあり方などについて考える機会となったことと思います。

来年度には、モーガンヒル市から同年代の青少年が瑞穂町に訪町する予定です。ホストファミリーとして又は同年代の青少年として事業に携わり、今後の瑞穂町の中核を成す存在になることを願っています。

瑞穂町教育委員会

= 参考資料 =

平成22年度 瑞穂町青少年国際派遣事業実施計画

「～平成22年度 姉妹都市モーガンヒル市ホームステイ事業～」

- 1 軒 名 瑞穂町青少年国際派遣事業
(姉妹都市モーガンヒル市ホームステイ事業)
- 2 目的及び効果 姉妹都市モーガンヒル市に中学生を派遣することで、交流を深め、国際感覚を養うとともに、社会性や自立性、感性の向上を通して瑞穂町ひいては日本のよさを認識することを目的とします。また、ホームステイを通じて、アメリカと日本の文化や慣習の違いを学ぶとともに、日常会話に必要な英語力を身につけ、コミュニケーション能力を高めます。
- 3 期 間 平成22年8月13日(金)から8月23日(日)
*10泊11日
- 4 場 所 米国カリフォルニア州モーガンヒル市
- 5 主な活動内容 ホームステイ体験、モーガンヒル市庁舎見学、モーガンヒル市の同年代の青少年との交流、市内施設視察、サンフランシスコ市内観光等。
なお、ホームステイにつきましては、2人1組にて実施する計画です。(モーガンヒル市姉妹都市委員会に依頼予定です)。
- 6 参加資格等
 - ◆瑞穂町内在住在学の中学生6名とします。
 - ◆原則、研修会等に全日程参加できることとします。
 - ◆モーガンヒル市青少年受け入れに伴う事業に積極的に協

力できる方。

- 7 募集方法 「広報みずほ」で周知を図るとともに、募集チラシを作成し町内各中学校へ配布します。また、瑞穂ケーブルテレビ等の各種メディアにも協力を願い、今後の瑞穂町ジュニアリーダーとして活躍が期待される青少年が多く応募するように配慮します。
- 8 選考方法 参加申込書と作文（1000字程度）と、教育委員会による面接により決定します。ただし、選考にあたり参考意見として中学校長に意見等を伺う予定です。
- 9 作文のテーマ 「モーガンヒル市で学びたいこと～今後への活かし方～」
- 10 参加者負担金 60,000円
【食事代・保険代・交通費・現地パーティー代の一部】
*負担は国内交通費を除く交通費を基準とし、航空運賃については1割負担、その他の経費は2.5割負担として計算しています。平成20年度より、一般成人対象の海外派遣事業の参加者負担割合を2.5割としていますが、青少年育成の観点から参加者負担の増大を抑制しています。
※パスポート取得費用、お土産代、成田空港までの往復交通運賃等は含みません。
- 11 現地日程 モーガンヒル市の姉妹都市委員会とメール等による調整を図り決定します。
現地日程は、モーガンヒル市学生交流委員会の指示によります。
- 12 引率者等 教育部長及び通訳者1名を計画しています。
- 13 予算措置 参加者負担金及び町一般財源を使用します。
◆参加者負担金：300千円

◆町一般財源：2,568千円（教育振興基金充当）

※主なものは委託料になります。

*ホームステイに係る費用につきましては、モーガンヒル市姉妹都市委員会及びホストファミリーによる負担となります。

※応募者の家庭が要保護・準要保護世帯の場合、参加者負担金を減免いたします（募集要項等は別途定めます）。

※参加者負担金の内1万円は現地でのパーティー代となりますので、予算措置には含みません。

- 14 委託業者 旅行業者には、事前説明（研修含みます）、渡航手続き、航空券、及び現地移動車両の手配を委託します。
- 15 派遣者研修 パスポート取得、日常英会話、生活習慣等について、委託業者国際化推進派遣事業参加者及び姉妹都市委員会の方を講師として実施します。
- 16 事業報告 事業報告として、10月17日（日）に開催される「こどもフェスティバル」において、今後の青少年国際派遣事業のPRも含め、派遣者からの報告及びスライド上映の報告会を計画しています。
なお、会場につきましては、スカイホール大ホールを予定しています。
- 17 その他 計画書に記載していない事項につきましては、モーガンヒル市姉妹都市委員会と調整し進めていきます。また、町の国際化推進事業であるため、企画財政課と連携して事業を推進します。

平成22年度 瑞穂町青少年国際派遣事業 報告書

発行日：平成23年3月 日

編集・発行：瑞穂町教育委員会 教育部 社会教育課 社会教育係

〒190-1221

東京都西多摩郡箱根ヶ崎2475番地

電話 (042) 557-6695 (直通)

FAX (042) 557-7667